

第 5 次堺市地域福祉計画策定調査「生活と地域の福祉に関するアンケート」集計結果

I. 調査概要

1. 調査の目的

第 5 次堺市地域福祉計画の策定（市町村成年後見制度利用促進基本計画、地方再犯防止推進計画、重層的支援体制整備事業実施計画、生活困窮者自立支援方策を包含し、第 7 次堺市社会福祉協議会地域福祉総合推進計画と一体的に策定）に向けた基礎資料として、地域福祉に関する現状や課題を把握するために実施しました。

2. 調査対象

(1) 調査方法 郵送により配付し、郵送及び WEB にて回収。

(2) 調査対象

①市民調査 3,000 件：18 歳以上の市民から無作為に抽出

②団体・機関調査 800 件

団体 400 件		機関 400 件	
校区福祉委員会	93 件	市レベルの専門機関・行政機関等	22 件
民生委員児童委員会	93 件	区レベルの専門機関・行政機関等	37 件
社会福祉協議会登録ボランティアグループ（抽出）	81 件	地域レベルの専門機関（地域包括支援センター等）	34 件
NPO 法人（抽出）	63 件	成年後見関係機関・団体	7 件
みんなの子育てひろば（抽出）	14 件	再犯防止関係機関・団体	8 件
こども食堂（抽出）	43 件	社会福祉法人	118 件
自助グループ・当事者組織（抽出）	6 件	居宅介護支援事業所（抽出）	58 件
フリースクール（抽出）	7 件	指定相談支援事業所（抽出）	58 件
		児童養護施設	4 件
		児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所（抽出）	25 件
		保育園（抽出）	28 件
		居住支援法人（抽出）	1 件

(3) 調査期間

①市民調査：令和 6（2024）年 11 月 13 日（発送）～12 月 17 日

*12 月 31 日到着分まで受付

②団体・機関調査：令和 6（2024）年 11 月 22 日（発送）～12 月 24 日

* 令和 7（2025）年 1 月 10 日到着分まで受付。

3. 回収状況

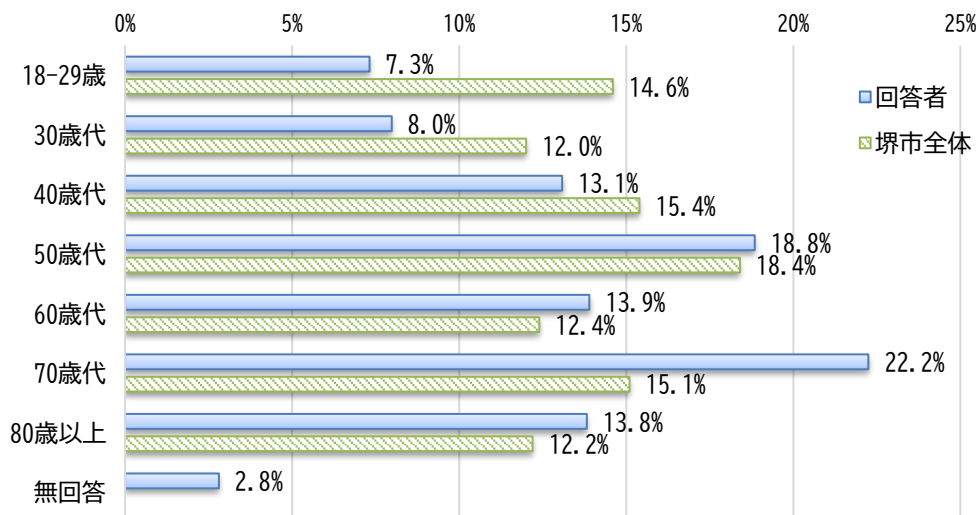
	有効発送数	郵送回答	WEB 回答	回答数合計	回収率
①市民調査	2,977 件	979 件（72.4%）	374 件（27.6%）	1,353 件	45.4%
②団体・機関調査	796 件	326 件（68.5%）	150 件（31.5%）	476 件	59.8%

II. 市民調査

* 注記がない場合、母数は 1,353 件です。

1. 回答者の属性

問 21-1 あなたの年齢は。(自由記述をもとに整理)



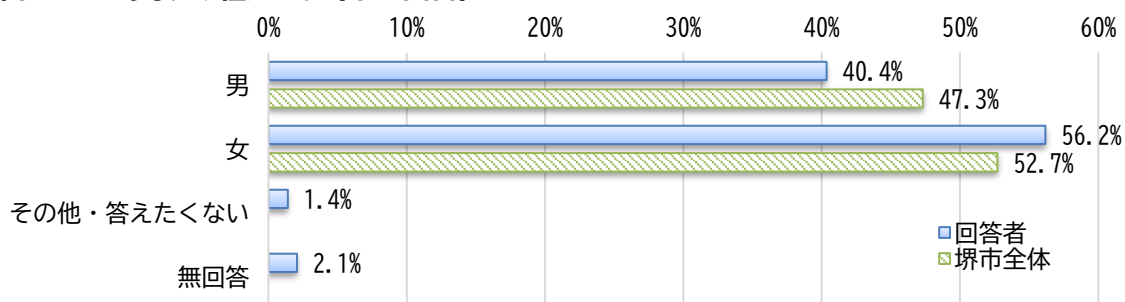
- 令和 6（2024）年 8 月 31 日現在の堺市人口と比較すると、本調査の回答者は、18-29 歳、30 歳代の割合が低い一方、70 歳代の割合が高くなっています。

年齢層別の回答状況

年齢層	有効発送数	郵送回答	WEB 回答	回答数合計	回収率
18-29 歳	447 件	42 件 (42.4%)	57 件 (57.6%)	99 件	22.1%
30 歳代	324 件	51 件 (47.2%)	57 件 (52.8%)	108 件	33.3%
40 歳代	466 件	95 件 (53.7%)	82 件 (46.3%)	177 件	38.0%
50 歳代	529 件	168 件 (65.9%)	87 件 (34.1%)	255 件	48.2%
60 歳代	363 件	138 件 (73.4%)	50 件 (26.6%)	188 件	51.8%
70 歳代	483 件	276 件 (91.7%)	25 件 (8.3%)	301 件	62.3%
80 歳以上	365 件	178 件 (95.2%)	9 件 (4.8%)	187 件	51.2%

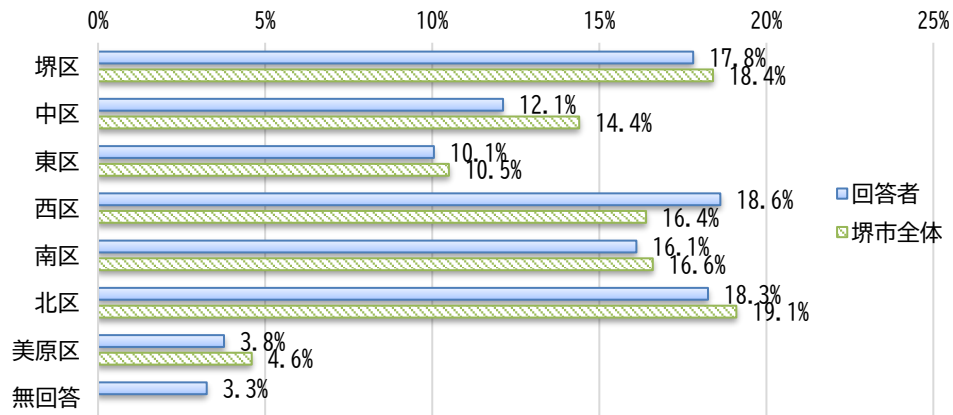
- 若い世代ほど回収率が低く、年齢があがるにつれて回収率が高い傾向です（80 歳以上を除く）。
- 18-29 歳、30 歳代は、WEB 回答で回答された方が過半数です。40 歳代以上では、郵送回答が過半数となり、70 歳代以上では郵送回答が 90%を超えます。

問 21-2 あなたの性別は。(単一回答)



- 令和 6（2024）年 8 月 31 日現在の堺市人口と比較すると、女性の割合がやや高くなっています。

問 21-3 あなたがお住まいの地域は。(単一回答)

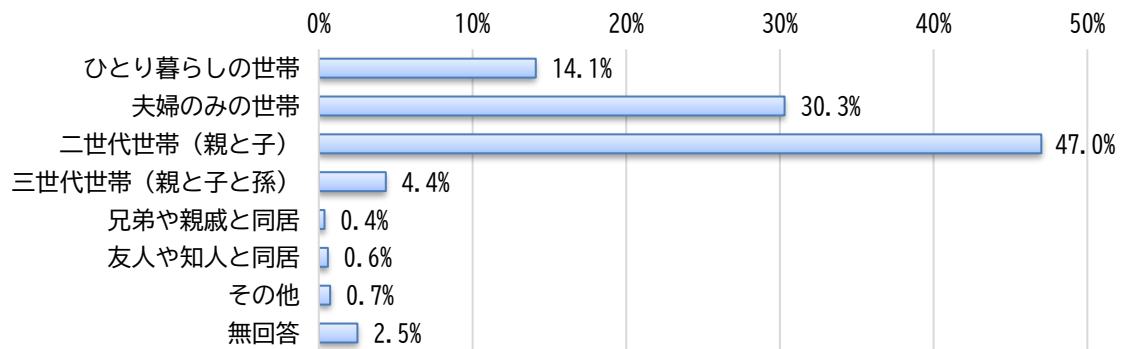


- ・ 区別では、概ね堺市全体の人口構成比どおりとなっています。

お住まいの小学校区

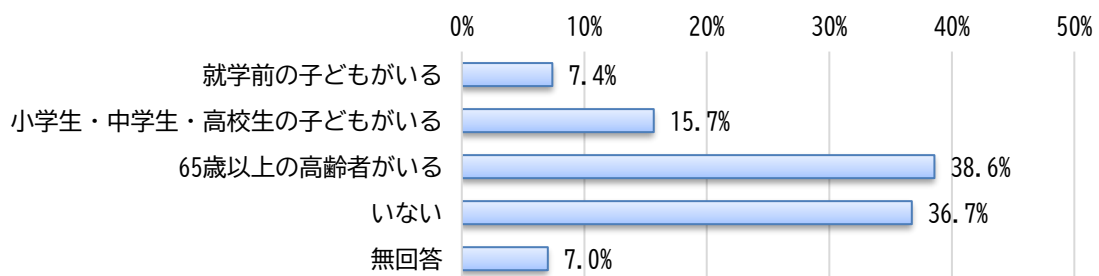
区	小学校区名(参考：日常生活圏域名)	回答数	区内割合
堺区	三宝・錦西・市・英彰(堺1)	69	28.6%
	錦・錦綾・浅香山・三国丘(堺2)	66	27.4%
	熊野・少林寺・安井・榎(堺3)	45	18.7%
	神石・新湊・大仙・大仙西(堺4)	41	17.0%
	小学校区はわからない・無回答	20	8.3%
	合計	241	100.0%
中区	八田荘・八田荘西・深井・深井西(中1)	60	36.6%
	東百舌鳥・宮園・東深井・土師(中2)	46	28.0%
	久世・東陶器・西陶器・福田・深阪(中3)	53	32.3%
	小学校区はわからない・無回答	5	3.0%
	合計	164	100.0%
東区	南八下・八下西・日置荘・日置荘西・白鷺(東1)	73	53.7%
	登美丘西・登美丘東・登美丘南・野田(東2)	58	42.6%
	小学校区はわからない・無回答	5	3.7%
	合計	136	100.0%
西区	浜寺・浜寺東・浜寺石津・浜寺昭和(西1)	73	29.0%
	鳳・鳳南・福泉・福泉上・福泉東(西2)	99	39.3%
	津久野・向丘・平岡・家原寺・上野芝(西3)	75	29.8%
	小学校区はわからない・無回答	5	2.0%
	合計	252	100.0%
南区	美木多・赤坂台・新檜尾台・城山台(南1)	55	25.2%
	福泉中央・桃山台・原山ひかり・庭代台・御池台(南2)	54	24.8%
	上神谷・宮山台・竹城台・竹城台東・若松台・茶山台(南3)	51	23.4%
	三原台・泉北高倉・はるみ・槇塚台(南4)	49	22.5%
	小学校区はわからない・無回答	9	4.1%
	合計	218	100.0%
北区	東浅香山・新浅香山・五箇荘・五箇荘東(北1)	75	30.4%
	東三国丘・光竜寺・新金岡・新金岡東(北2)	51	20.6%
	大泉・金岡・金岡南・北八下(北3)	52	21.1%
	中百舌鳥・百舌鳥・西百舌鳥(北4)	62	25.1%
	小学校区はわからない・無回答	7	2.8%
	合計	247	100.0%
美原区全域(美原1)		51	100.0%
無回答		44	
合計		1,353	

問 21-4 あなたの世帯のタイプは次のうちどれに該当しますか。（単一回答）



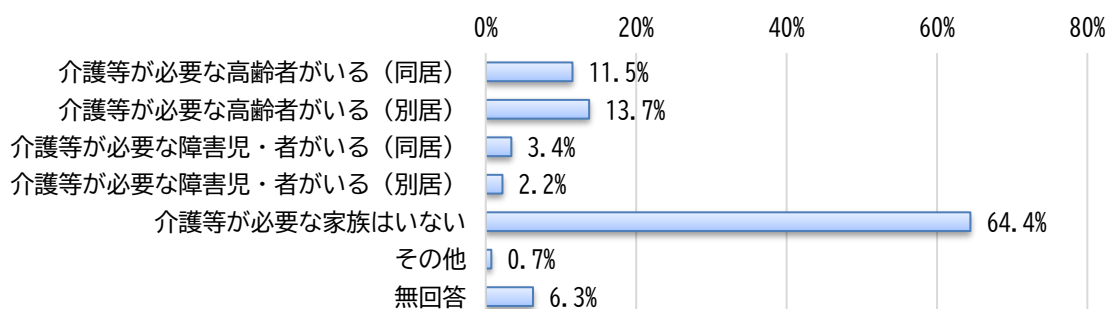
- ・ ひとり暮らしの世帯 14.1%（前回 14.6%）、夫婦のみの世帯 30.3%（前回 28.3%）、二世帯世帯 47.0%（前回 42.6%）、三世帯世帯 4.4%（前回 7.4%）などとなっており、前回調査と概ね同様の結果となっています。

問 21-5 同居されているご家族に、18 歳未満の子どもや 65 歳以上の高齢者がいますか（複数回答）



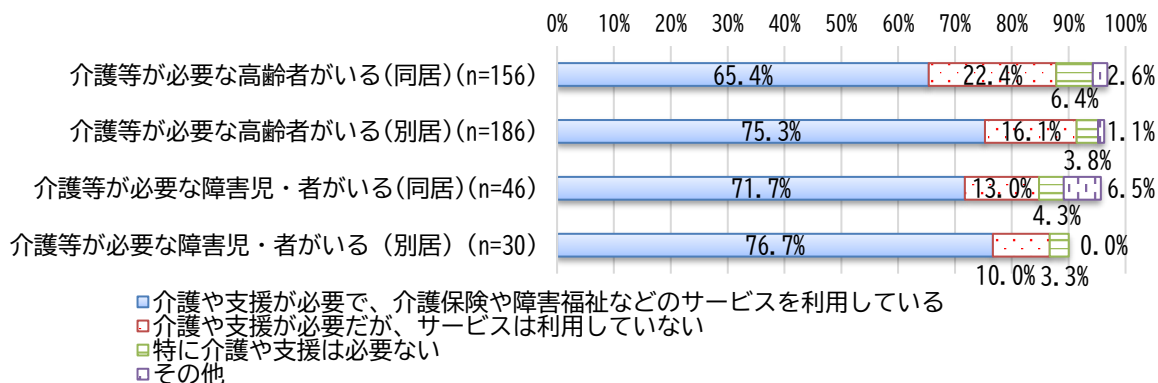
- ・ 「65 歳以上の高齢者がいる」が 38.6%（前回 31.7%）、「小学生・中学生・高校生の子がいる」が 15.7%（前回 12.6%）、「就学前の子どもがいる」が 7.4%（前回 9.1%）となっています。就学前と小・中・高校生の重複を整理すると、18 歳未満の子どもがいる世帯は 17.8%（前回 18.3%）です。

問 21-6 あなた自身も含めて、ご家族に介護等が必要な方がいますか（複数回答）



- ・ 介護等が必要な高齢者がいる方のうち、同居は 11.5%（前回 9.1%）、別居は 13.7%（前回 15.4%）となっています。
- ・ 介護等が必要な障害児・者がいる方のうち、同居は 3.4%（前回 3.7%）、別居は 2.2%（前回 1.7%）となっています。

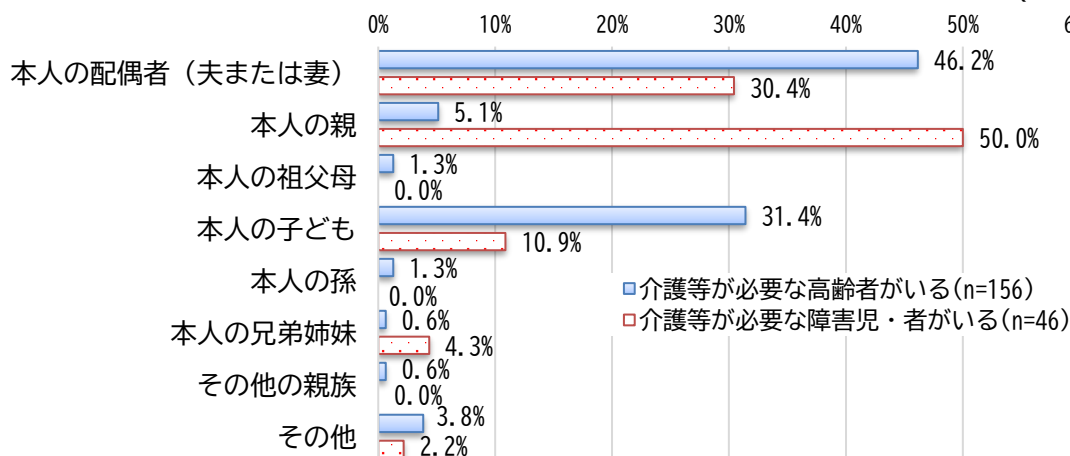
問 21-7 あなた自身も含めて介護等が必要なご家族がいる場合、支援サービスを利用していますか。(単一回答) *問 21-6 で介護等が必要な同居または別居のご家族がいると答えた方(418 人)



- 問 21-6 で「介護等が必要な高齢者がいる(同居)」と答えた方は、「介護や支援が必要だが、サービスは利用していない」が 22.4%とやや多いです。それ以外の場合は、「介護や支援が必要で、介護保険や障害福祉などのサービスを利用している」が 70%を超えています。 *今回新設の設問

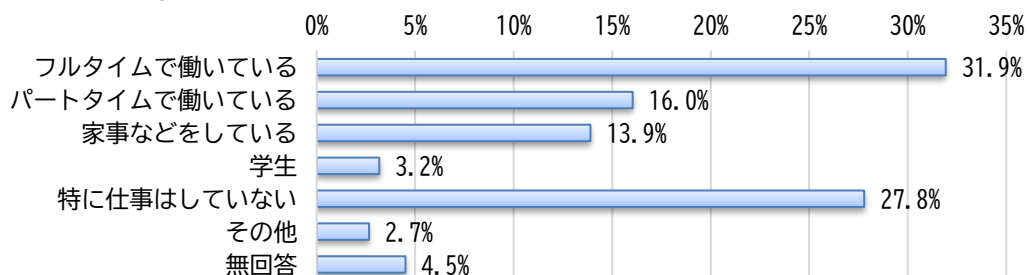
問 21-8 介護等が必要な同居のご家族がいる場合、主に誰が介護を担っていますか。(複数回答)

*問 21-6 で介護等が必要な同居または別居のご家族がいると答えた方(418 人)



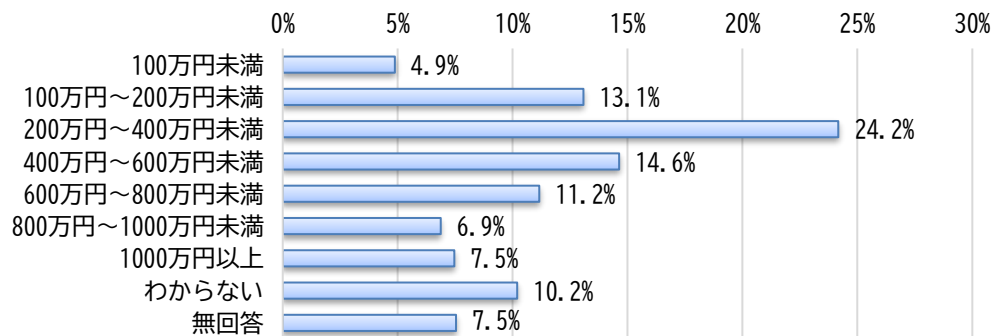
- 問 21-6 で「介護等が必要な高齢者がいる(同居)」と答えた方は、「本人の配偶者」が 46.2%、「本人の子ども」が 31.4%です。
- 問 21-6 で「介護等が必要な障害児・者がいる」と答えた方は、「本人の親」が 50.0%、「本人の配偶者」が 30.4%です。 *今回新設の設問

問 21-9 あなたはお仕事に就いていますか。(単一回答)



- 有給の仕事に就いている人は、47.9%(前回 42.9%)です。

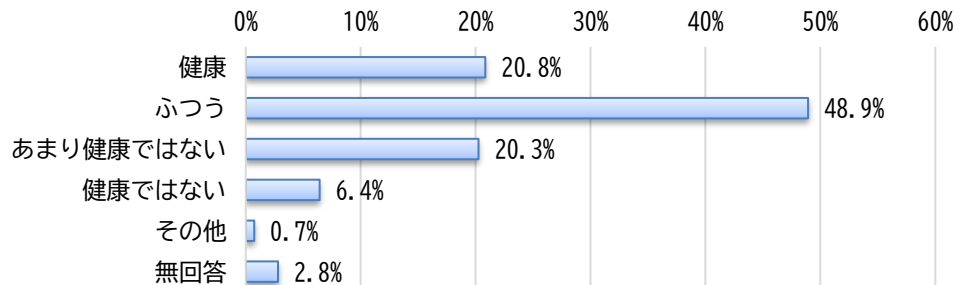
問 21-10 ご家族を含めて、あなたの世帯における昨年のおおよその年収を教えてください。（単一回答）



- ・ 「200～400 万円未満」が 24.2%と最も多くなっています。

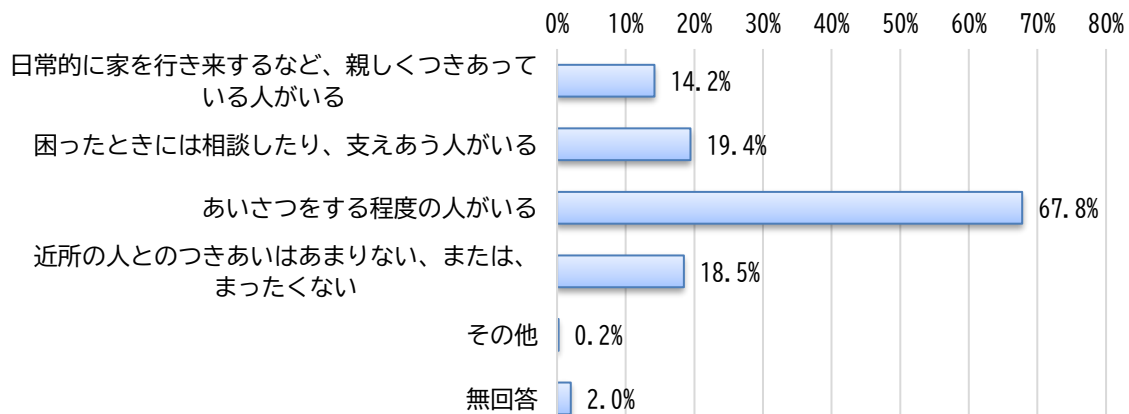
*今回新設の設問

問 21-11 あなたの健康状態はいかがですか。（単一回答）



- ・ 「健康」と「ふつう」を合わせた 69.7%（前回 75.7%）の方は、健康状態に問題はないと答えています。

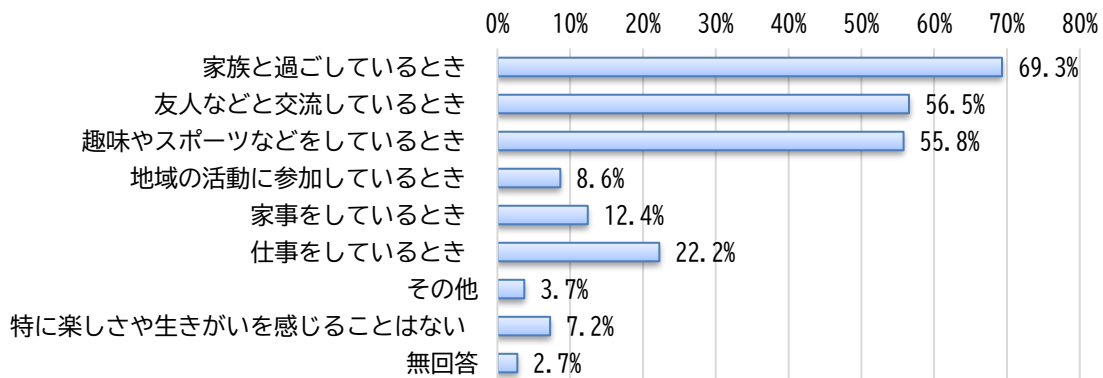
問 21-12 あなたは、近所の人とどれくらいのおつきあいがありますか。（複数回答）



- ・ 「日常的に家を行き来するなど、親しくつきあっている人がある」は 14.2%（前回 18.6%）、「困ったときには相談したり、支えあう人がある」は 19.4%（前回 23.7%）と、一定のつきあいがあるという回答割合が前回よりやや低くなっています。
- ・ 「あいさつをする程度の人がある」は 67.8%（前回 66.9%）で、前回と同程度です。
- ・ 「近所の人とのつきあいはあまりない、または、まったくない」は 18.5%（前回 13.4%）で、前回からやや高くなっています。

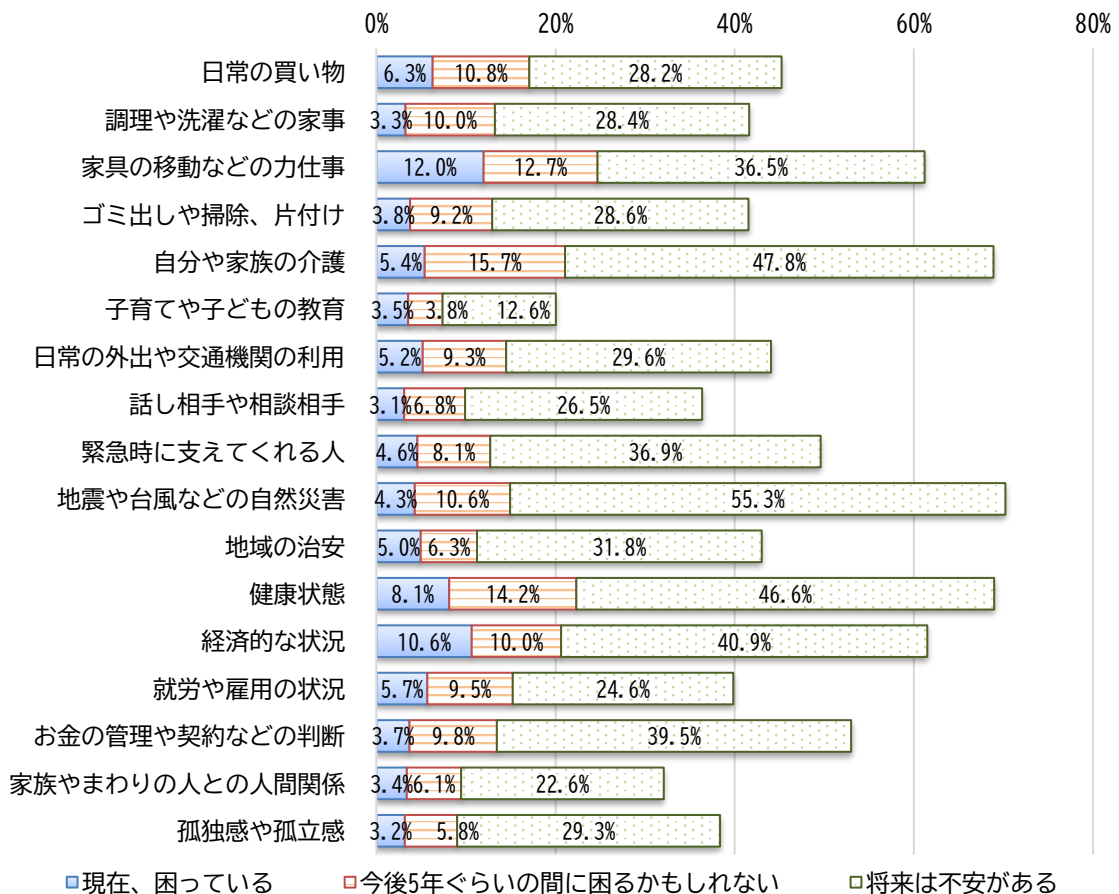
2. 日常生活での「楽しみ」や「困りごと」について

問 1 あなたは日常生活のなかで、どのようなときに楽しさや生きがいを感じますか。（複数回答）



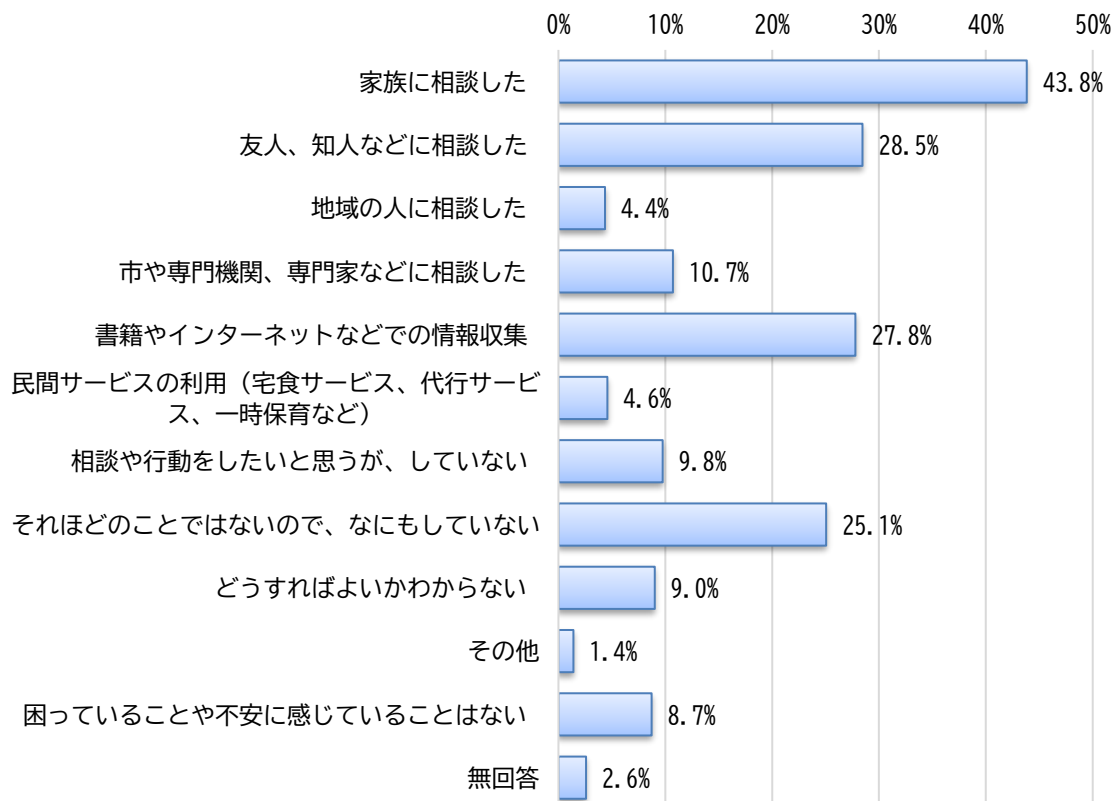
- ・ 「家族と過ごしているとき」が69.3%で最多です。「友人など交流しているとき」が56.5%、「趣味やスポーツなどしているとき」が55.8%で続きます。
- ・ 「地域の活動に参加しているとき」は8.6%にとどまります。
- ・ 30歳代以上は、いずれの年齢層でも「家族と過ごしているとき」の回答割合が最も高くなっています。29歳以下は「趣味やスポーツなどしているとき」が76.8%と最も高いです。

問 2 あなたは日常生活に関する以下のことで、困っていることや不安に感じていることがありますか。（各項目について1つ回答）



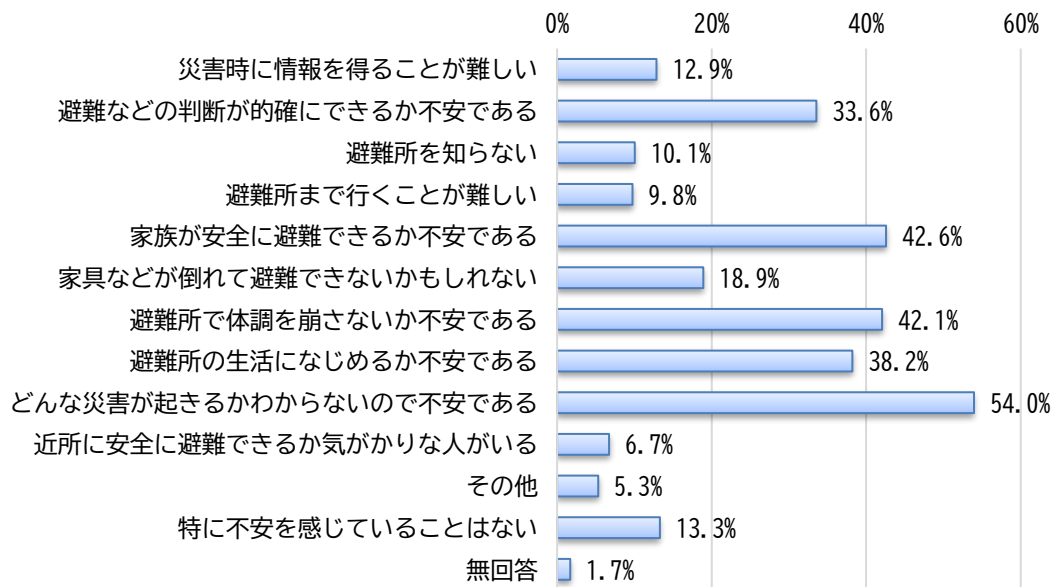
- ・ 「現在、困っている」ことは、「家具の移動などの力仕事」（12.0％）が最多で、「経済的な状況」（10.6％）が続きます。年代別に見ると、60 歳代以下では「経済的な状況」が 1 番目にあがっています。29 歳以下では「お金の管理や契約などの判断」、30 歳代では「子育てや子どもの教育」、40・50 歳代では「就労や雇用の状況」、60 歳以上では「家具の移動などの力仕事」が上位にあがっていることが特徴です。
- ・ 「今後 5 年ぐらいの間に困るかもしれない」のは、「自分や家族の介護」（15.7％）が最多で、50 歳代で 21.6％とやや高い割合となっています。
- ・ 「将来は不安がある」のは、「地震や台風などの自然災害」（55.3％）が最多で、いずれの年齢層でも 1 番目か 2 番目にあがっています。

問 3 問 2 でお聞きしたような日常生活の困りごとや不安を解決していくために、あなたがしたことがあることに関して、あてはまるものはありますか（複数回答）



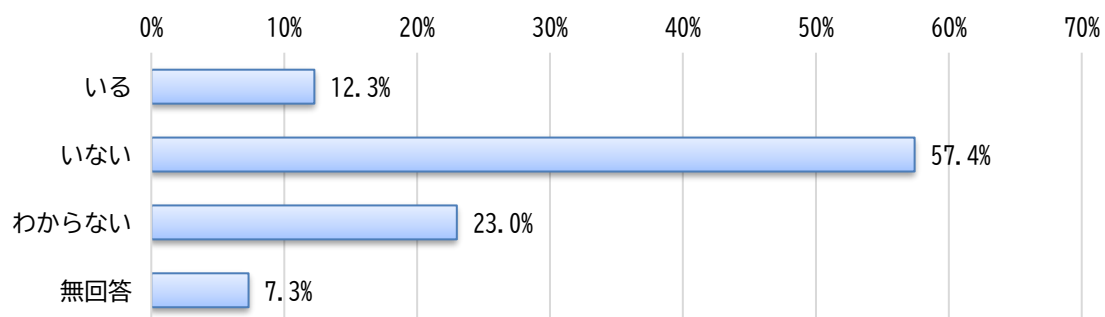
- ・ 「家族に相談した」が 43.8％と最も多く、「友人、知人などに相談した」が 28.5％、「書籍やインターネットなどでの情報収集」が 27.8％と続きます。
- ・ 年齢別にみると、60 歳代以下は「書籍やインターネットなどでの情報収集」が 30％程度ですが、70 歳代は 22.6％、80 歳代は 8.6％と低いです。
- ・ 問 2 で「自分や家族の介護」で現在困っている方の 37.0％は、「市や専門機関などに相談した」を選んでいました。また、「子育てや子どもの教育」で現在困っている方は、38.3％が「書籍やインターネットなどでの情報収集」を選んでいました。「話し相手や相談相手」で現在困っている方の 40.5％、「孤独感や孤立感」で現在困っている方は 37.2％が「どうすればよいかわからない」と答えています。

問 4 地震や台風などの災害時の避難に関して、あてはまるものはありますか（複数回答）



- ・ 「どんな災害が起きるかわからないので不安である」という回答が 54.0%と最多で、「家族が安全に避難できるか不安である」が 42.6%、「避難所で体調を崩さないか不安である」が 42.1%と続きます。
- ・ 前回調査と比較すると、「どんな災害が起きるかわからないので不安である」という回答割合が高くなっています（今回 54.0%、前回 45.4%）。このほか「避難所で体調を崩さないか不安である」（今回 42.6%、前回 35.1%）、「避難所の生活になじめるか不安である」（今回 38.2%、前回 29.1%）という回答割合も、高くなっています。
- ・ 年齢別にみると、30 歳代以下は「避難などの判断が的確にできるか不安である」が 40%超、40 歳代以下は「家族が安全に避難できるか不安である」が 50%超です。70 歳代以上は「避難所で体調を崩さないか不安である」が 50%前後です。

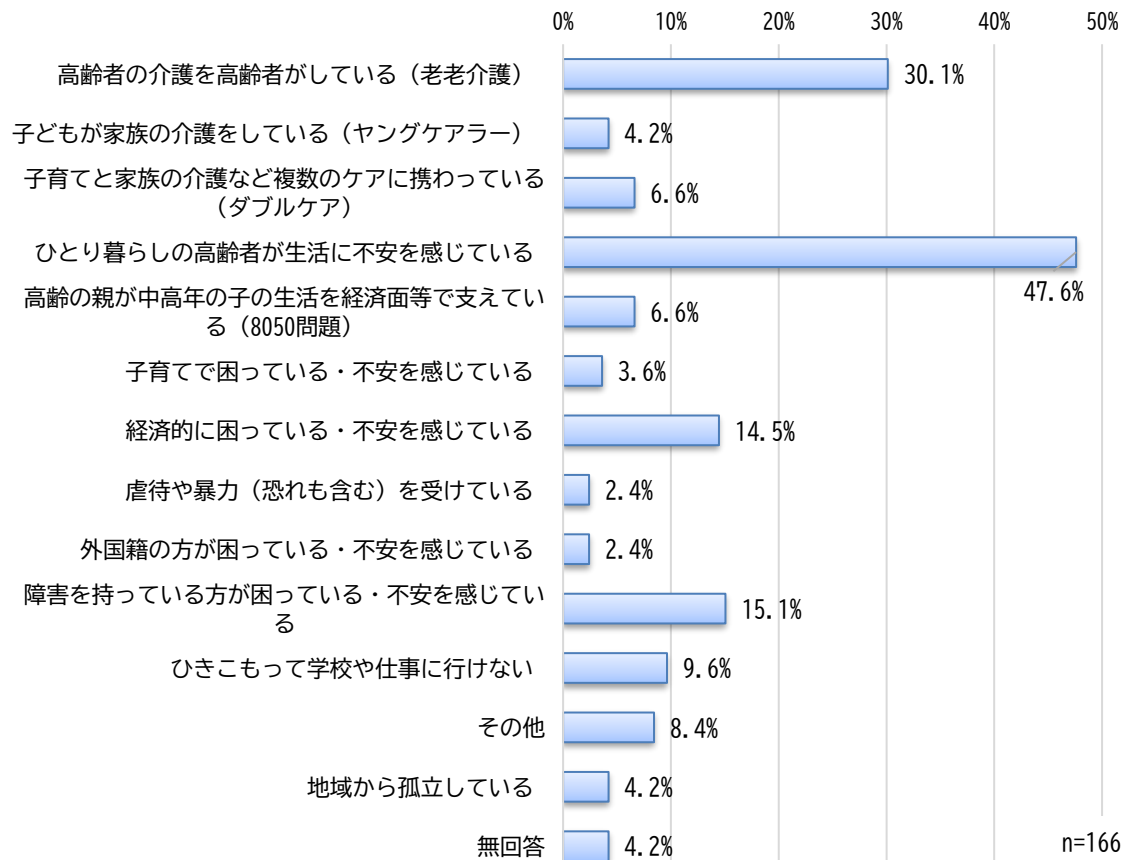
問 5 あなたは、家族や親族以外で、地域で気がかりな人がいますか。（単一回答）



- ・ 家族や親族以外で、地域で気がかりな人は「いない」が 57.4%と最も多く、「わからない」が 23.0%、「いる」が 12.3%と続きます。

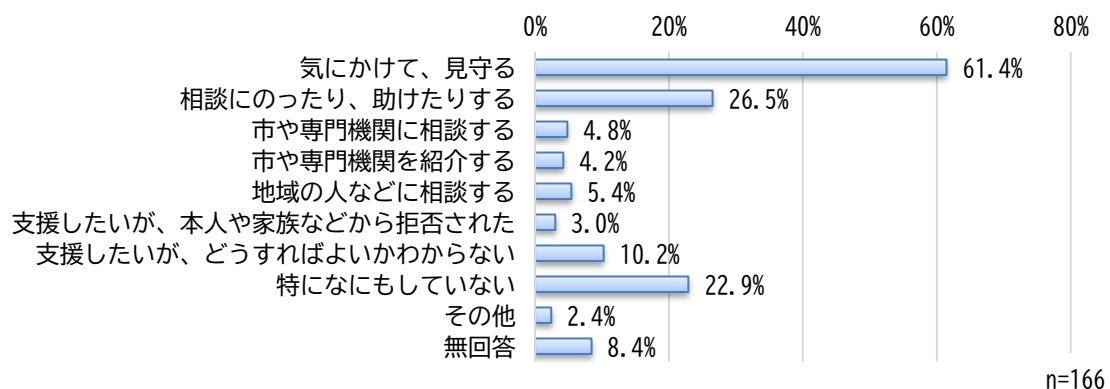
【問 5 家族や親族以外で、地域で気がかりな人が「いる」と答えた方（166 人）】

気がかりなのは、どのような方ですか（複数回答）



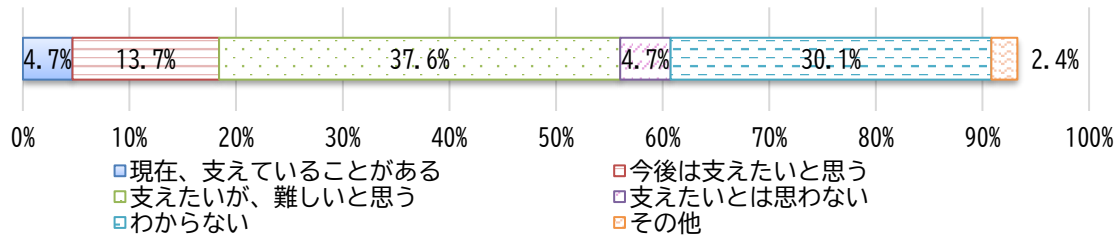
- ・ 「ひとり暮らしの高齢者が生活に不安を感じている」が 47.6%と最も多く、「高齢者の介護を高齢者がしている（老老介護）」が 30.1%と続きます。また、障害を持っている方が困っている（15.1%）、経済的に困っている（14.5%）、8050 問題（6.6%）、ダブルケア（6.6%）、ヤングケアラー（4.2%）など様々な点で、気がかりな人がいるという回答があります。

その人に対して、あなたはなにかしたことはありますか（複数回答）

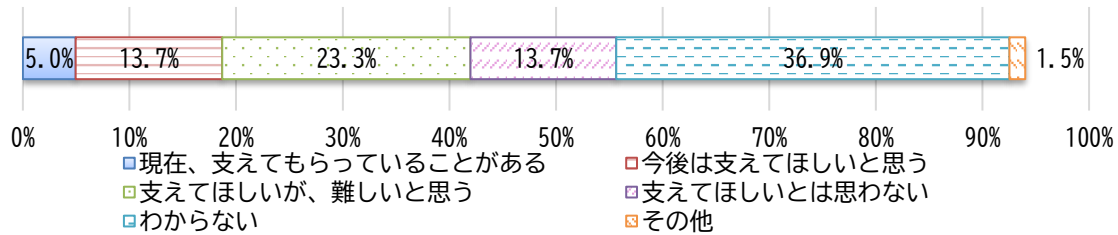


- ・ 「気にかけて、見守る」が 61.4%と最も多く、「相談にのったり、助けたりする」が 26.5%と続きます。一方で、「特にになにもしていない」という回答が 22.9%、「支援したいが、どうすればよいかわからない」という回答が 10.2%あります。

問 6-1 日常生活の困りごとや不安を解決するひとつの方法として、あなたが地域の人を支えることについて、どう思いますか。(単一回答)



問 6-2 日常生活の困りごとや不安を解決するひとつの方法として、あなたが地域の人から支えてもらうことについて、どう思いますか。(単一回答)



- ・ 問 6-1 では、「支えたいが、難しいと思う」が 37.6%で最も多く、「わからない」が 30.1%、「今後は支えたいと思う」が 13.7%と続きます。
- ・ 問 6-2 では、「わからない」が 36.9%で最も多く、「支えてほしいが、難しいと思う」が 23.3%、「今後は支えてほしいと思う」と「支えてほしいとは思わない」が 13.7%と続きます。

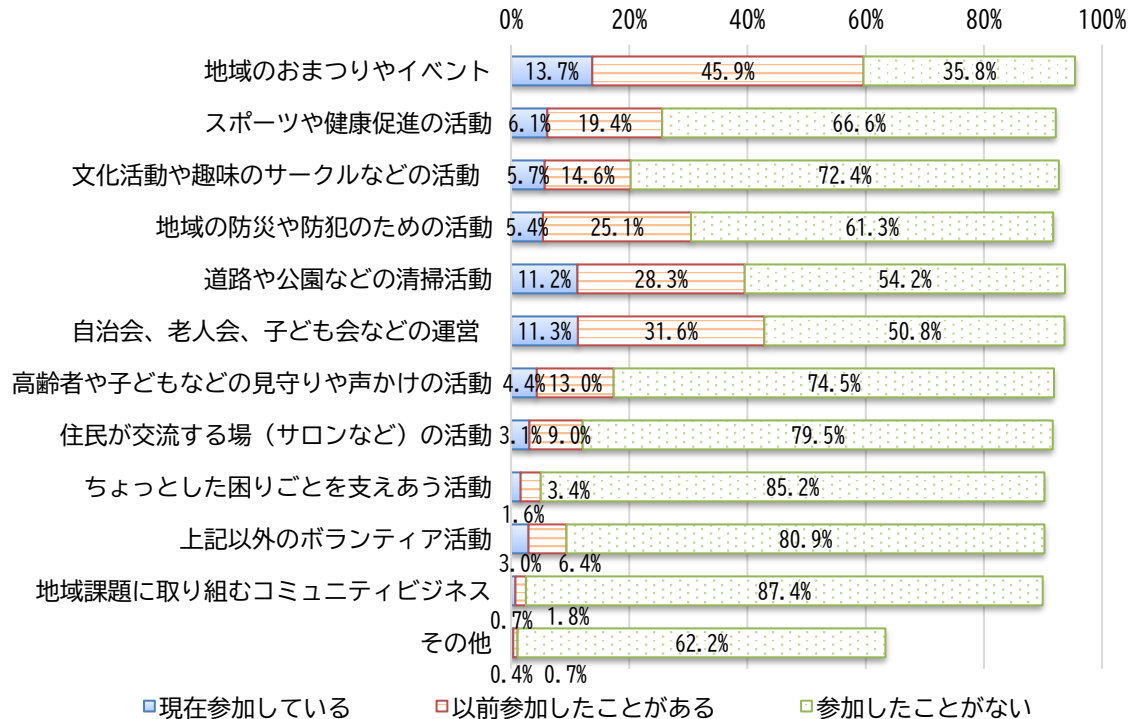
		問 6-1						
		現在、支えていることがある (n=63)	今後は支えたいと思う (n=186)	支えたいが、難しいと思う (n=509)	支えたいとは思わない (n=64)	わからない (n=407)	その他 (n=33)	無回答 (n=91)
問 6-2	現在、支えてもらっていることがある	34.9%	2.7%	4.7%	3.1%	1.5%	15.2%	3.3%
	今後は支えてほしいと思う	25.4%	40.9%	12.0%	0.0%	6.1%	3.0%	7.7%
	支えてほしいが、難しいと思う	19.0%	19.9%	43.0%	4.7%	7.9%	12.1%	8.8%
	支えてほしいとは思わない	7.9%	8.1%	13.9%	70.3%	10.6%	15.2%	1.1%
	わからない	6.3%	25.3%	25.0%	18.8%	71.3%	24.2%	12.1%
	その他	4.8%	1.1%	0.8%	3.1%	0.0%	24.2%	1.1%
	無回答	1.6%	2.2%	0.6%	0.0%	2.7%	6.1%	65.9%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

- ・ 問 6-1 で「現在、支えていることがある」と答えた方のうち、問 6-2 で「現在、支えてもらっていることがある」の回答が 34.9%と最多で、地域住民が支え合う関係があることがうかがえます。
- ・ 問 6-1 で「今後は支えたいと思う」と答えた方のうち、問 6-2 で「今後は支えてほしいと思う」の回答が 40.9%と最多で、地域住民が支え合う関係を望んでいることがうかがえます。

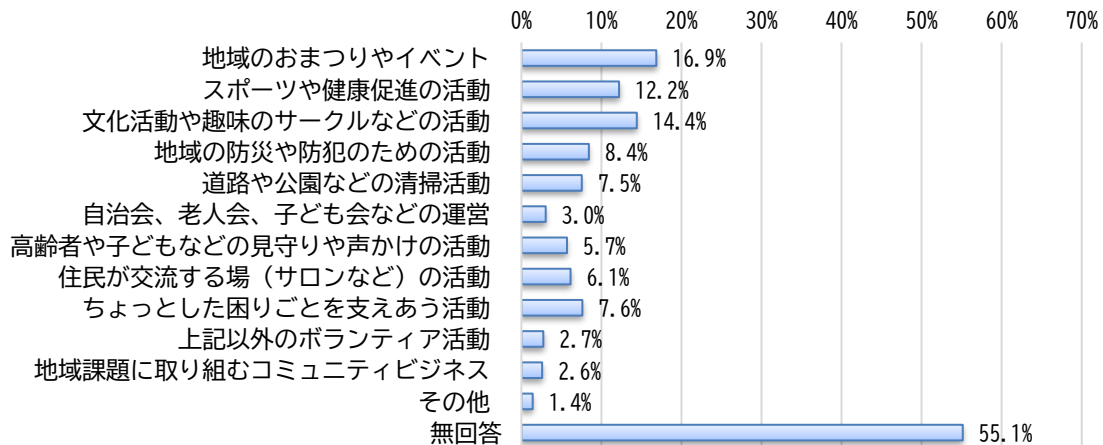
- ・ 問 6-1 で「支えたいが、難しいと思う」と答えた方のうち、問 6-2 で「支えてほしいが、難しいと思う」の回答が 43.0%と最多で、地域住民が支え合う関係は難しいと考えていることがうかがえます。

3. 地域との関わりや活動への参加について

問 7 あなたは、お住まいの地域で次のような活動に参加していますか。（各項目について 1 つ回答）



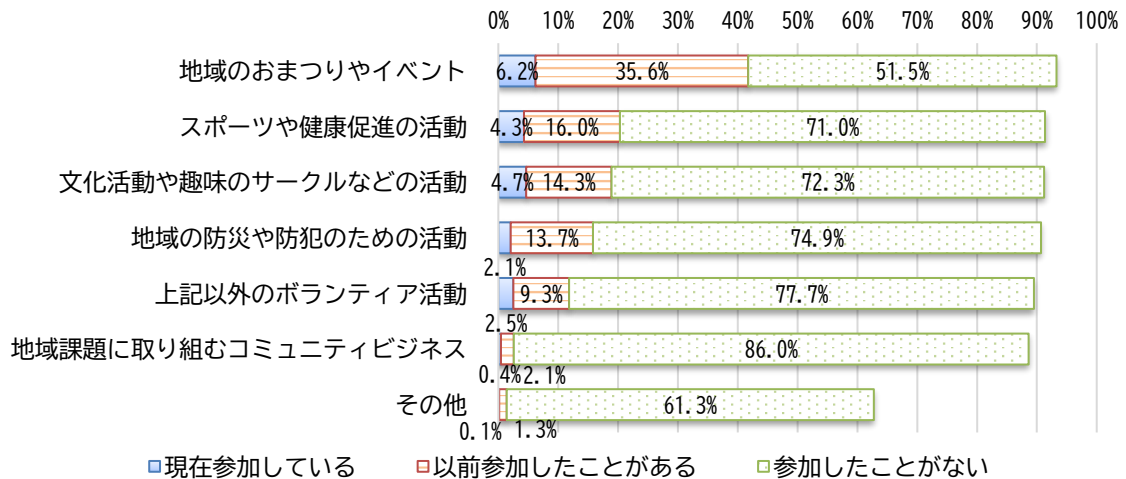
上記のうち、今後参加したいものがあれば、お答えください（3つまで）



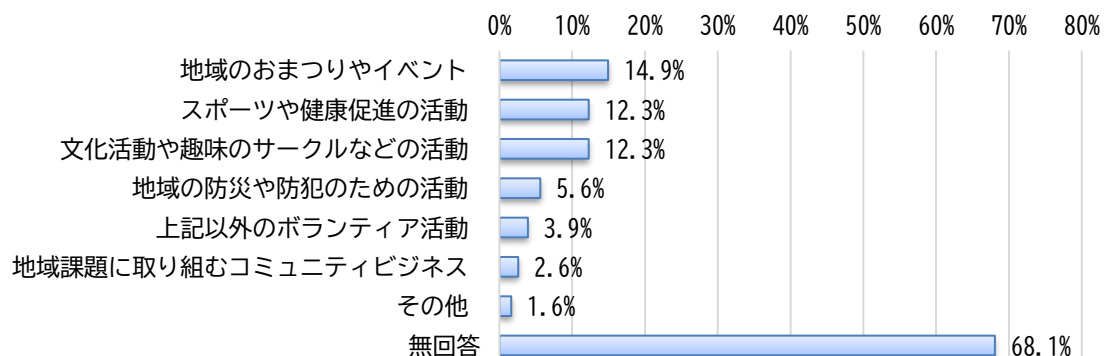
- ・ お住まいの地域で、「現在参加している」という回答が比較的多かったのは、「地域のおまつりやイベント」（13.7%）、「自治会、老人会、子ども会などの運営」（11.3%）、「道路や公園などの清掃活動」（11.2%）でした。「地域のおまつりやイベント」は、「以前参加したことがある」の回答も特に多くあります（45.9%）。

- ・ 今後参加したいものとしては、「地域のおまつりやイベント」（16.9%）、「文化活動や趣味のサークルなどの活動」（14.4%）、「スポーツや健康促進の活動」（12.2%）でした。40 歳代以下では、「地域のおまつりやイベント」の回答が 30%を超えます。

問 8 あなたは、お住まいの地域以外で次のような活動に参加したことがありますか。（各項目について 1 つ回答）

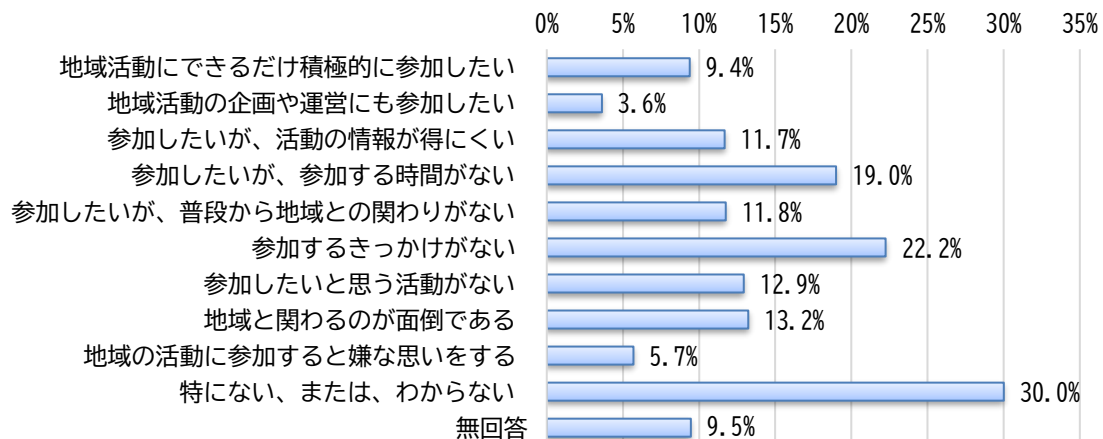


上記のうち、今後参加したいものがあれば、お答えください（3つまで）



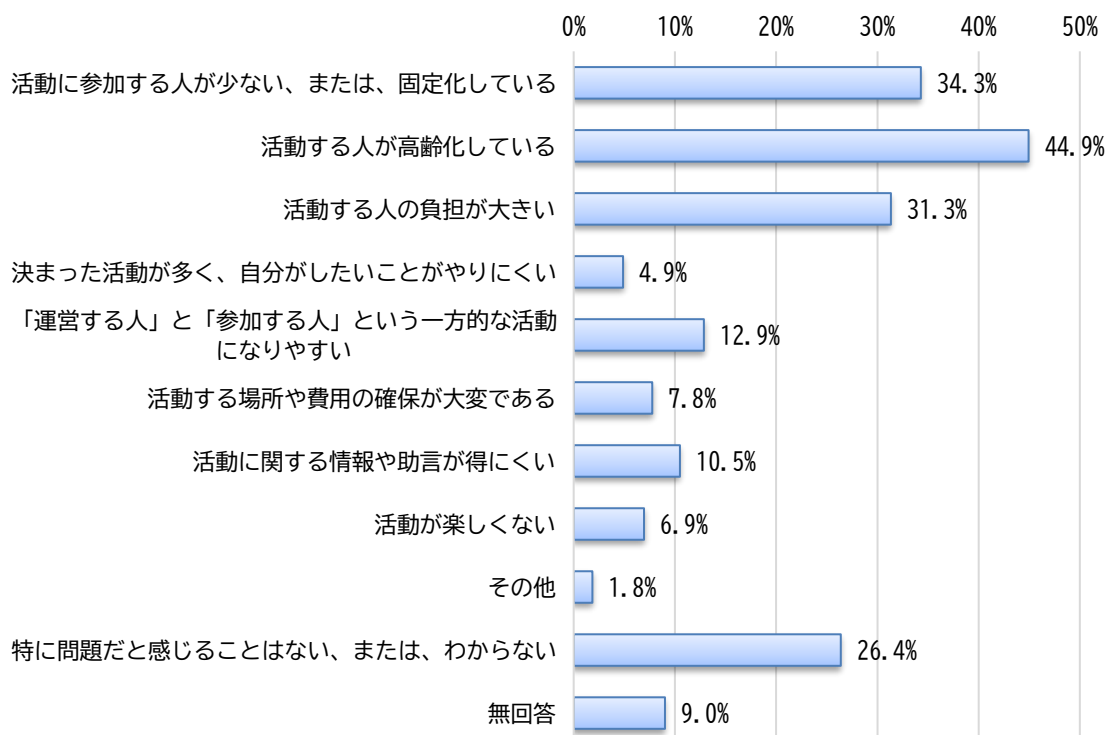
- ・ お住まいの地域以外での活動は、お住まいの地域での活動に比べて、「現在参加している」と「以前参加したことが」の回答割合はともに低い傾向にあります。
- ・ お住まいの地域以外で今後参加したいものについては、全体では無回答の割合が高いです。年齢別にみると、40 歳代以下では、「地域のおまつりやイベント」の回答が 20%以上あります。また、60 歳以下では、「スポーツや健康促進の活動」、「文化活動や趣味のサークルなどの活動」の回答が 10～20%あります。

問 9 あなたは、お住まいの地域の活動への参加について、あてはまることはありますか。（複数回答）



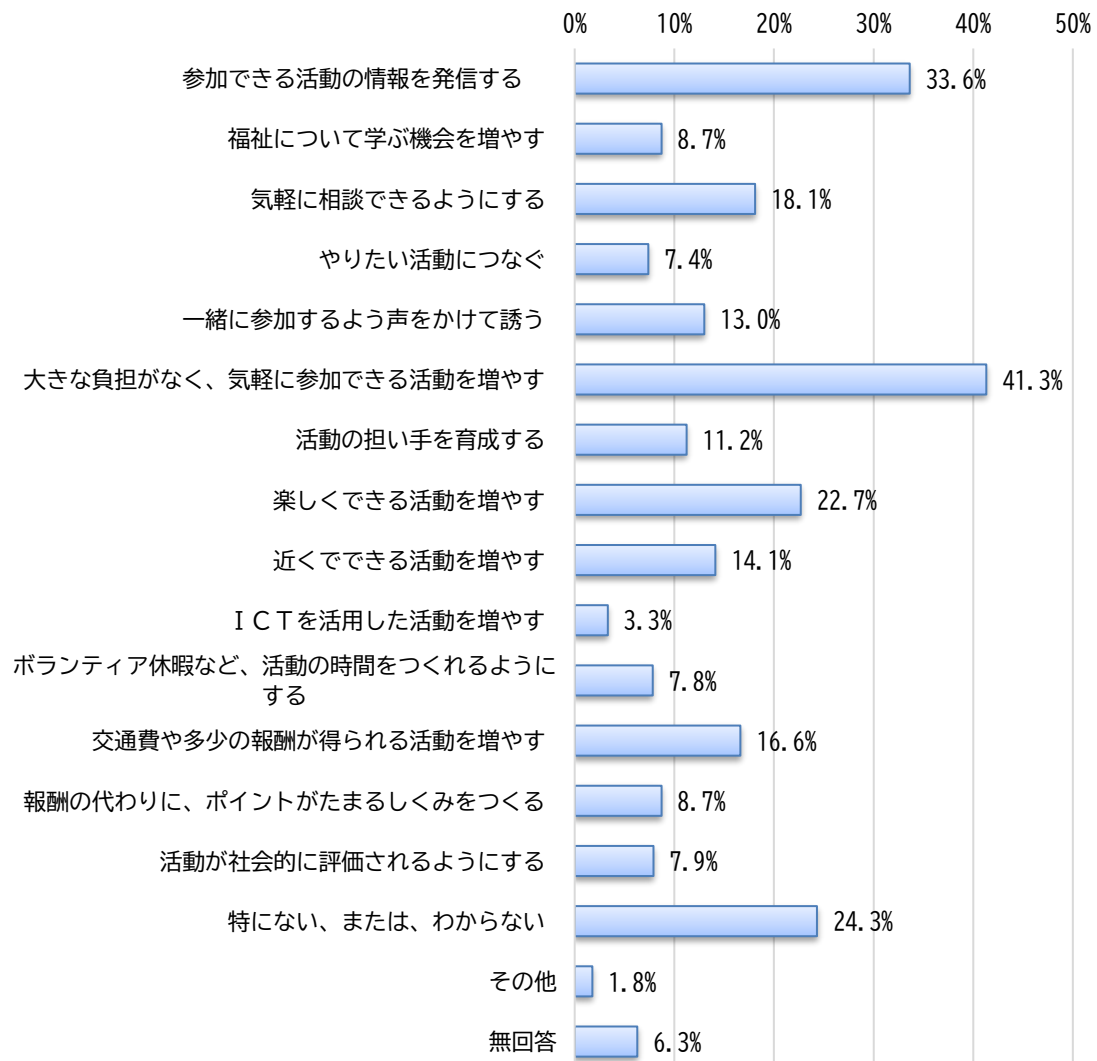
- ・ 「特になし、または、わからない」を除けば、「参加するきっかけがない」が22.2%と最多で、「参加したいが、参加する時間がない」が19.0%と続いています。
- ・ 年齢別では、30歳代以下は「参加するきっかけがない」が30%を超えます。また、50歳代以下は「参加したいが、参加する時間がない」が25%を超え、やや多いです。

問 10 市民による地域の活動について、課題だと思うことがありますか。（複数回答）



- ・ 市民による地域活動の課題としては、「活動する人が高齢化している」が44.9%、「活動に参加する人が少ない、または、固定化している」が34.3%、「活動する人の負担が大きい」が31.3%と、これら3つについて多くの回答がありました。これは、どの年齢層でも同じ傾向です。

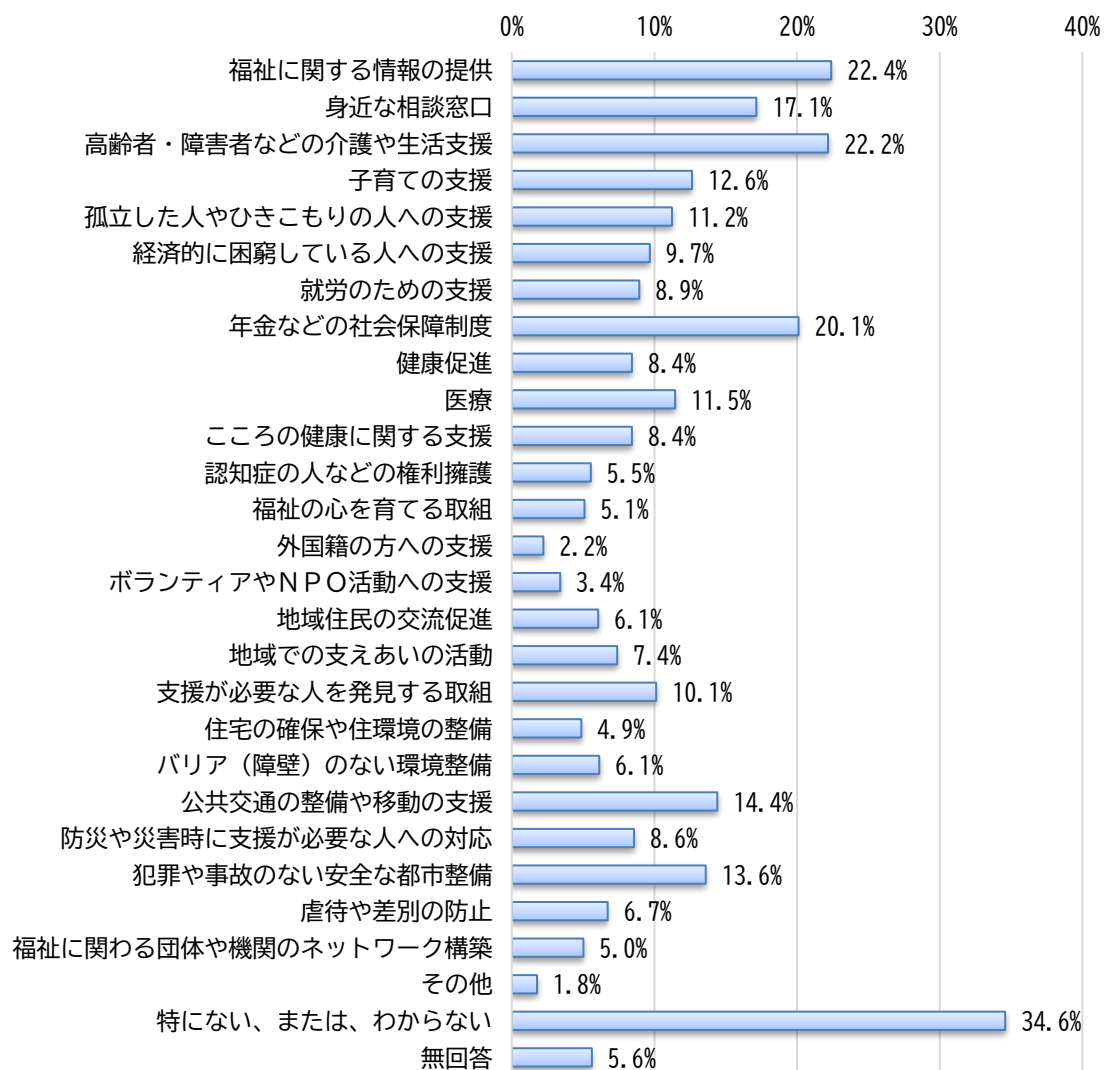
問 11 あなたは、地域の活動に参加する人を増やすには、どのような取組を特に優先的に進めるのがよいと思いますか。（複数回答）



- ・ 地域の活動に参加する人を増やすための取り組みとしては、「大きな負担がなく、気軽に参加できる活動を増やす」が41.3%と最多で、どの年齢層でも最も選択されています。
- ・ 2 番目に「参加できる活動の情報を発信する」が33.6%と続いており、情報提供が必要という声も多くあります。特に30 歳代では、40.7%が同項目を選択しています。
- ・ 3 番目に「楽しくできる活動を増やす」が22.7%で、いずれの世代でも20%程度の方が選択しています。
- ・ 40 歳代以下では、いずれの年齢層でも「交通費や多少の報酬が得られる活動を増やす」が25%であり、やや多いです。

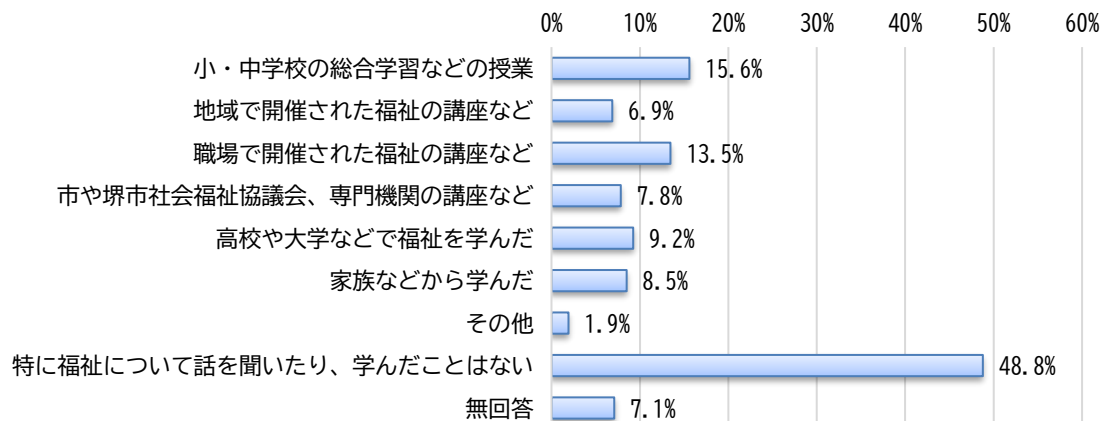
4. 福祉に関する考えについて

問 12 本市の福祉に関する環境について、不十分だと思うことはありますか。（複数回答）



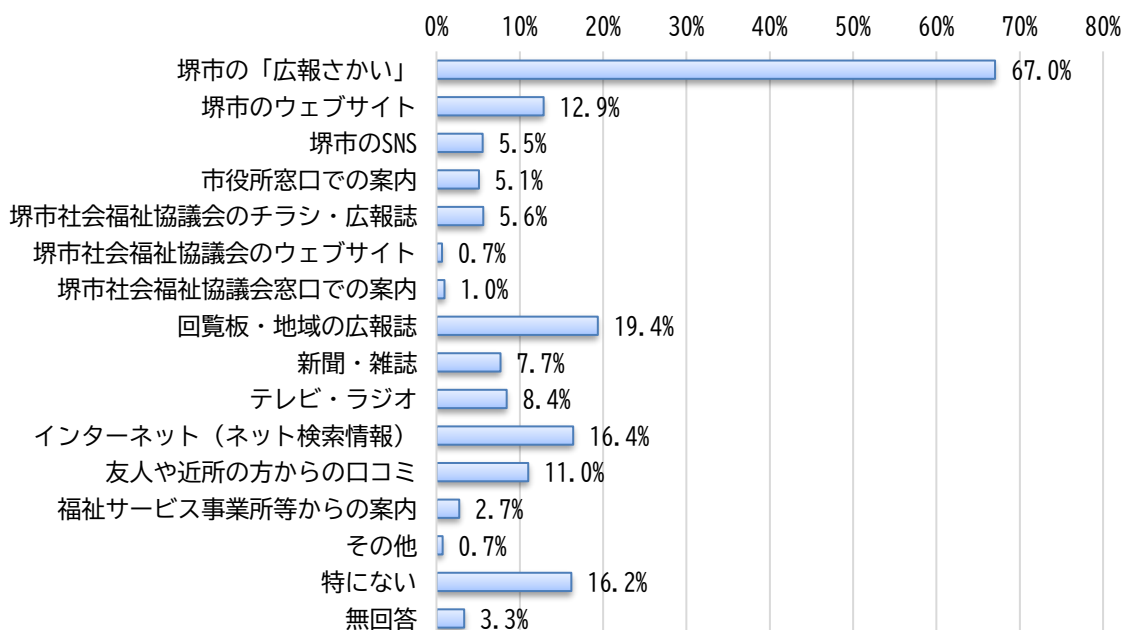
- 本市の福祉に関する環境の課題については、「特になし、または、わからない」を除けば、「福祉に関する情報の提供」（22.4%）が最多で、「身近な相談窓口」（17.1%）とともに、福祉の情報や支援へのアクセスが課題と認識されています。これは、質問の仕方は異なるものの、前回調査の傾向と同様で、継続的な課題です。また、いずれの年代でも、「福祉に関する情報の提供」は回答が多い上位3項目以内にあり、幅広い年代で課題と認識されていることがうかがえます。
- 「年金などの社会保障制度」、「公共交通の整備や移動の支援」、「犯罪や事故のない安全な都市整備」は、年齢層を問わず、10%以上の回答があり、一定の課題意識がうかがえます。
- 40歳代以下では、「子育ての支援」が最多となっており、18-29歳、30歳代では30%以上です。一方で、50歳代以上では「高齢者・障害者などの介護や生活支援」への回答が多く、70歳代以上では最多です。

問 13 あなたは、どこかで福祉について話を聞いたり、学んだことがありますか。（複数回答）



- 福祉について学んだ機会としては、「小・中学校の総合学習などの授業」が 15.6%と最多で、「職場で開催された福祉の講座など」が 13.5%と続いています。なお、「特に福祉について話を聞いたり、学んだことはない」の回答が 48.8%と、前回の 38.3%から 10 ポイント以上高くなっています。
- 年齢別では、18-29 歳は「小・中学校の総合学習などの授業」が 59.6%、30 歳代では同 39.8%と、若い世代は学校での教育機会が多いです。また、年齢が上がるにつれて、「特に福祉について話を聞いたり、学んだことはない」の回答割合が高くなります。

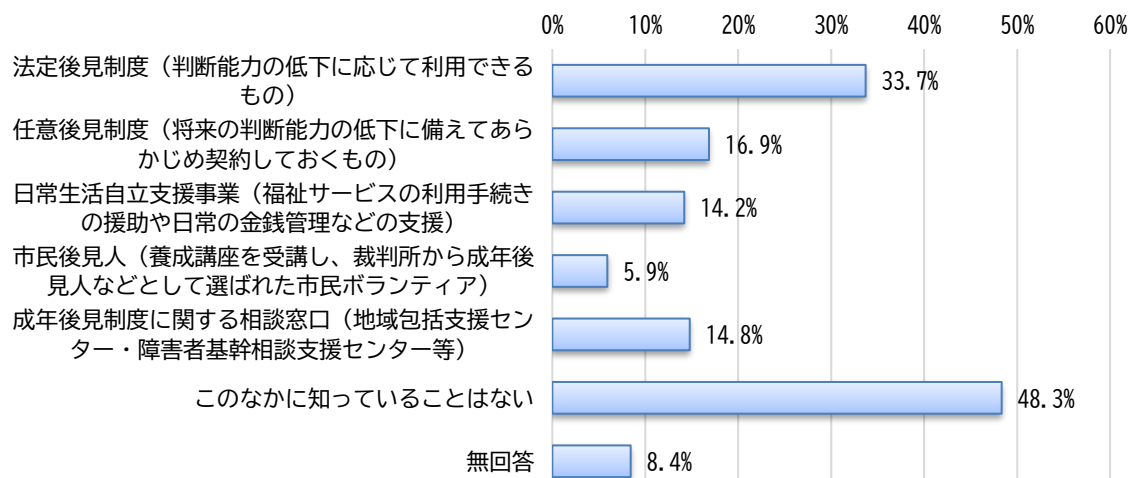
問 14 あなたは、堺市の福祉に関する情報をどのような手段で入手しますか。（複数回答）



- 堺市の福祉に関する情報の入手手段としては、「広報さかい」が最多で（67.0%）です。
- 年齢別では、30 歳代以上では「広報さかい」が最多の手段です。18-29 歳は「特になし」が 41.4%で最多で、「広報さかい」が 26.3%と続きます。
- 60 歳代以下は、「インターネット（ネット検索情報）」、「堺市のウェブサイト」が上位の情報入手手段となっています。一方で 70 歳代以上は、「回覧板・地域の広報誌」が「広報さかい」に次ぐ、情報入手手段となっています。

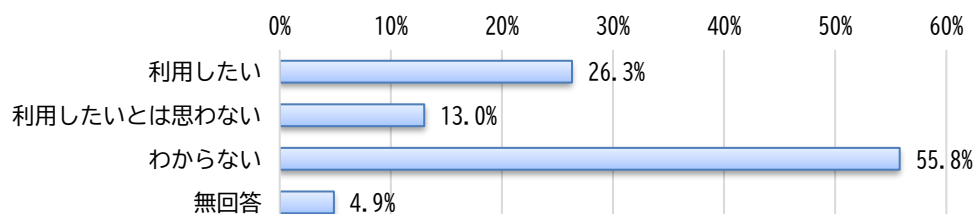
5. 成年後見制度について

問 15 成年後見制度について、次のような制度内容や事業などについてご存知ですか。（複数回答）

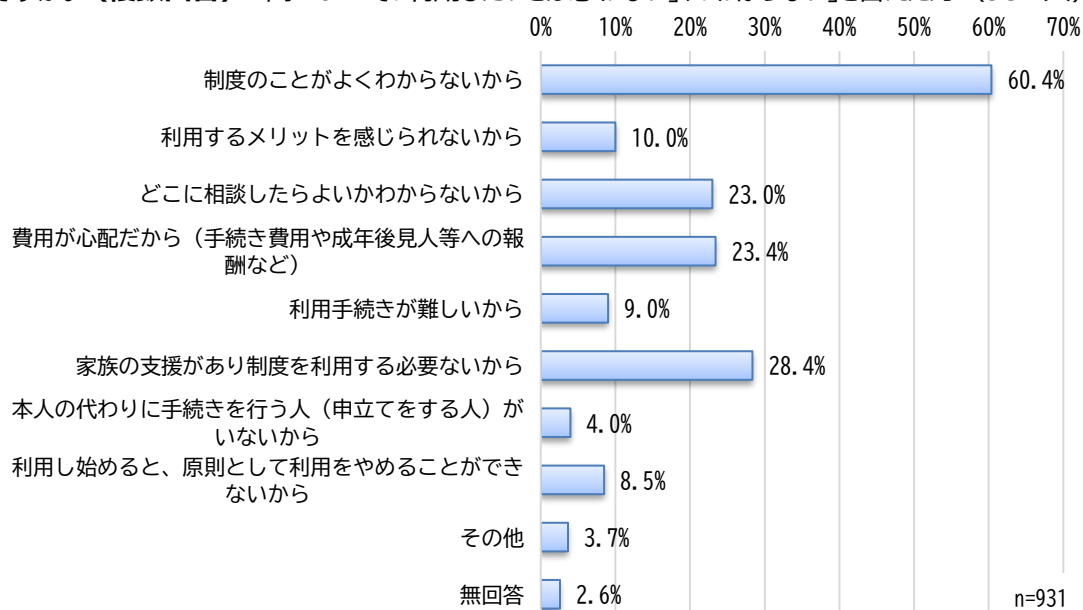


- ・ 権利擁護の制度・事業の認知度は、「法定後見制度」が33.7%、「任意後見制度」が16.9%、「成年後見制度に関する相談窓口」が14.8%、「日常生活自立支援事業」が14.2%、「市民後見人」が5.9%と続いています。

問 16-1 あなたやご家族の判断能力が不十分となったときには、成年後見制度を利用したいと思いますか。（単一回答）



問 16-2 「利用したいとは思わない」、「わからない」と回答した理由について、あてはまるものは次のどれですか。（複数回答） *問 16-1 で「利用したいとは思わない」、「わからない」と答えた方（931人）

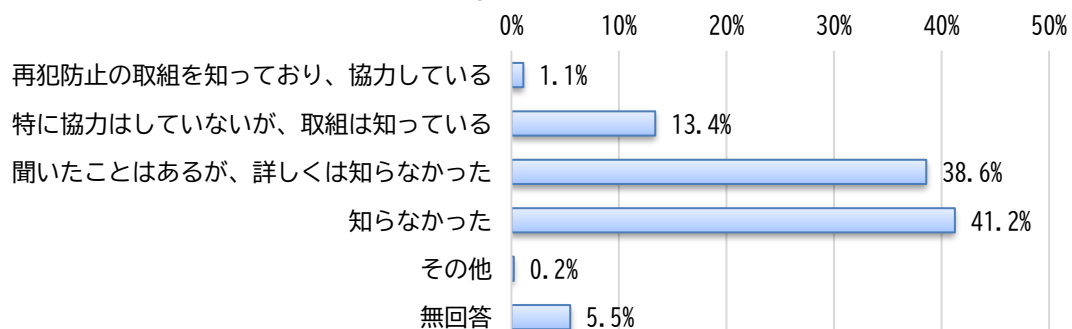


n=931

- ・ 問 16-1 より、成年後見制度の利用意向については、「利用したい」が 26.3%、「利用したいと思わない」が 13.0%であり、「わからない」が 55.8%と最多です。
- ・ 問 16-2 より、「利用したいとは思わない」、「わからない」の理由としては、「制度のことがよくわからないから」が 62.0%と最多です。問 15 からわかるように制度自体の認知度が低いことと関連があると考えられます。また、「家族の支援があり制度を利用する必要ないから」が 29.1%、「費用が心配だから（手続き費用や成年後見人等への報酬など）」が 24.0%、「どこに相談したらよいかわからないから」が 23.6%で続いています。
- ・ 回答者自身も含めて、介護等が必要な家族がいる場合（問 21-6）の属性別にみると、「介護等が必要な高齢者がいる（同居）」は 23.7%、「介護等が必要な高齢者がいる（別居）」は 33.9%、「介護等が必要な障害児・者がいる（同居）」は 39.1%、「介護等が必要な障害児・者がいる（別居）」は 40.0%の方が、成年後見制度を「利用したい」と回答しています。

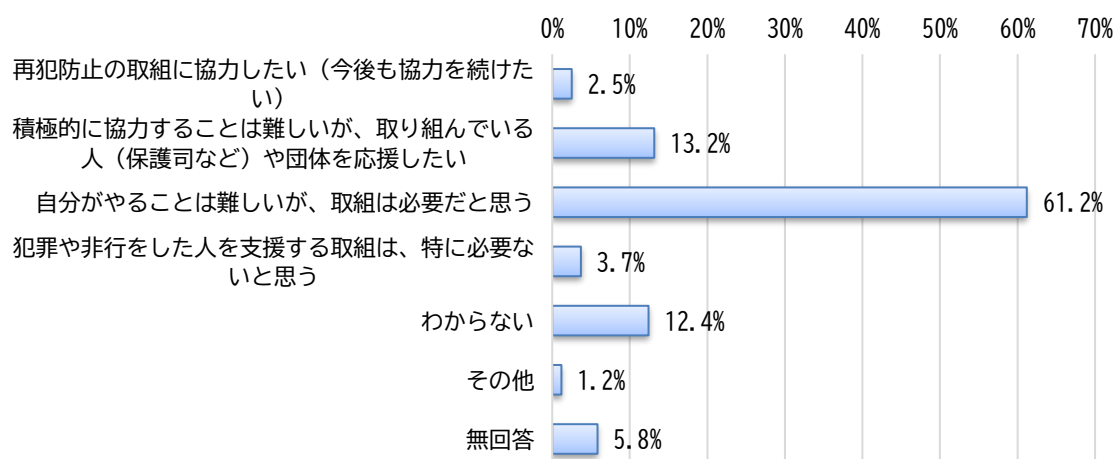
6. 再犯防止の取組について

問 17 あなたは、こうした（再犯防止の）取組が進められていることをご存じでしたか。（単一回答）



- ・ 再犯防止の取組の認知度については、「知らなかった」が 41.2%と最多ですが、前回の同 50.6%より約 9 ポイント低いです。「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」が 38.6%で、前回の同 29.7%から約 9 ポイント高くなっており、取組についての認知度がやや向上したと考えられます。

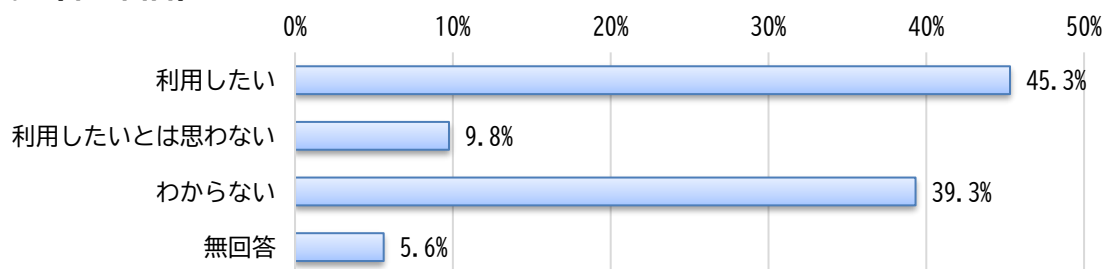
問 18 あなたは、再犯防止の取組を進めることについて、どのように思いますか。（単一回答）



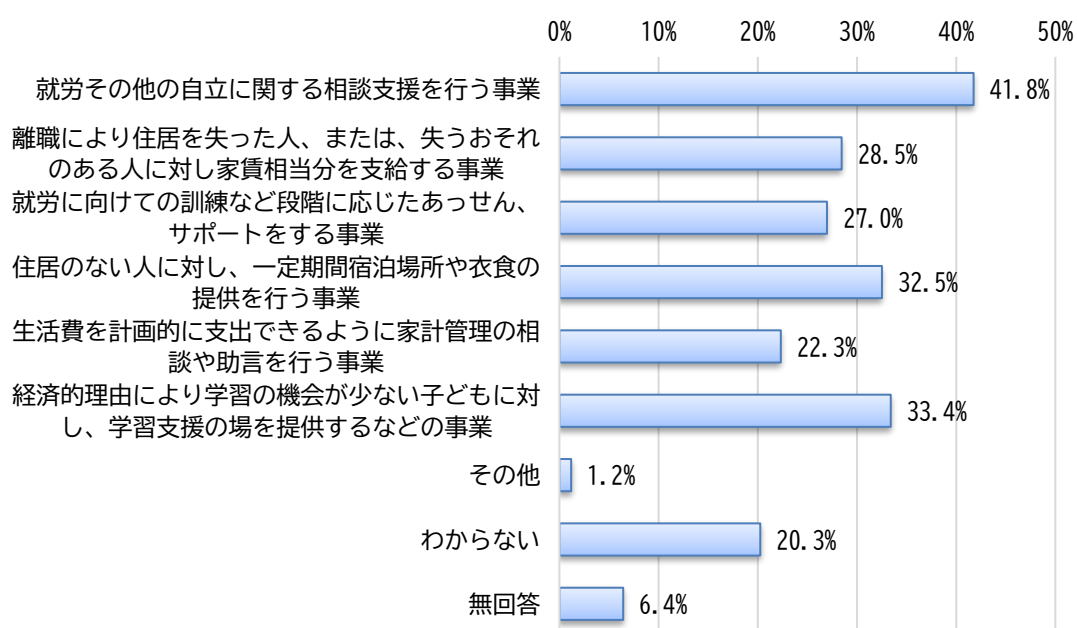
- ・ 再犯防止の取組を進めることについては、「自分がやることは難しいが、取組は必要だと思う」が 61.2%で、前回の同 55.1%から 5 ポイント以上高いです。

7. 生活困窮者自立支援制度について

問 19 あなたは支援が必要になったときには、生活困窮者自立支援制度を利用したいと思いますか。（単一回答）



問 20 あなたが何らかの理由で困窮し、現在の生活を維持することが困難になったとき、必要と思われる支援内容は、次のどれですか。（複数回答）



- ・ 次期計画では生活困窮者自立支援方策を包含することから新設した設問です。
- ・ 問 19 より、生活困窮者自立支援制度の利用意向は、「利用したい」が 45.3%と最多ですが、「わからない」が 39.3%で続いています。
- ・ 問 20 より、必要と思われる支援内容は、「就労その他の自立に関する相談支援を行う事業」が 41.8%と最多で、「経済的理由により学習の機会が少ない子どもに対し、学習支援の場を提供するなどの事業」が 33.4%、「住居のない人に対し、一定期間宿泊場所や衣食の提供を行う事業」が 32.5%と続きます。
- ・ 問 20 について、50 歳代以下は「就労その他の自立に関する相談支援を行う事業」を 55%以上選択しています。40 歳代以下は、経済的理由により学習の機会が少ない子どもに対し、学習支援の場を提供するなどの事業」を約 50%選択しています。また、30-50 歳代は「離職により住居を失った人、または、失うおそれのある人に対し家賃相当分を支給する事業」を 40%程度選択しています。